

社会・環境報告書  
2013



社会との共存と  
地球環境との調和  
をめざして

# SIIグループ事業概要

SIIグループの製品は、身近なコンシューマー製品からレストランやタクシーで使用する機器、オフィスや研究所、工場などの設備として、また、部品類は多くの製品のキーパーツとして社会のあらゆるところでご利用いただいています。ここでは、SIIグループの代表的な製品をご紹介します。

## ウォッチ・ムーブメント



**機械式腕時計**  
伝統の精密技術の結晶、機械式腕時計。温かみのある時を刻み続けます。



**ウォッチムーブメント**  
クォーツムーブメントは世界的なベストセラ、機械式ムーブメントは世代を超えて愛用される製品です。



**ハードディスク用部品**  
腕時計製造で培った精密加工技術を活かしたハードディスクドライブ用部品です。



**全自動内面研削盤**  
小径ベアリング、車載部品を高精度、高能率に研削する省スペースなCNC内面研削盤です。

## 精密部品・工作機械

## 電子デバイス



**CMOS IC**  
小型、低消費電力、高信頼性。モバイル機器や家電製品、車載電装など身近なところで活躍しています。



**水晶振動子**  
フォトリソグラフィ技術により小型・高精度化を実現。低消費電力化にも貢献しています。



**マイクロ電池**  
モバイル機器のメモリーや時計機能を確実にバックアップし、安心を提供しています。



**希土類磁石**  
あらゆる機器の小型化や薄型化、省消費電力化に貢献し高品質を提供しています。

## 情報機器・ソリューション



**無線決済端末**  
無線カード決済をサポートするCREPICO(クレピコ)。タクシーや集金などのシーンで利用されています。



**オーダーリングシステム**  
外食産業向けオーダーリングシステムです。レストラン、居酒屋、ゴルフ場などで幅広く活躍中です。



**データ通信モジュール**  
無線通信や小型端末の技術を活用してユビキタスネットワーク社会の進化に貢献しています。



**放射線スペクトル分析装置**  
放射線を精密に測定します。学術研究や安全管理に幅広く利用されています。



**ネットワーク製品群**  
通信機器や運用管理製品群など、通信事業者から一般企業まで幅広い分野で利用されています。

## プリンター



**大型プリンター**  
業務用プリンターに求められる効率性と信頼性を高い技術で実現します。



**サーマルプリンタ**(メカユニット・周辺機器)  
POS、医療計測、物流などの業種に小型・軽量・高速なサーマル印字式の製品を提供しています。



**インクジェットプリントヘッド**  
屈折の印字安定性と多様なインク適応性を活かし、各種印刷ニーズに応える製品を提供しています。

## コンシューマー製品



**電子辞書**  
ビジネスパーソンや医学・翻訳のスペシャリスト、学生のための電子辞書を提供しています。



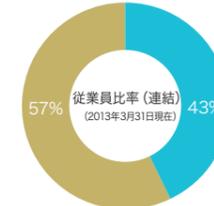
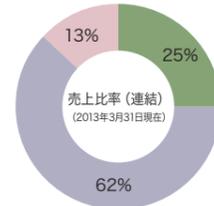
**PHS電話機**  
快適なコミュニケーションのための便利な機能とデザイン性を備えたPHS電話機を提供しています。



**メトロノーム/チューナー**  
楽器チューニング用のチューナー、機械式や電子式のメトロノームを提供しています。

## 会社概要

社名：セイコーインスツル株式会社(略称：SII)  
設立：1937年(昭和12年)9月7日  
資本金：97.56億円  
決算期：3月(年1回)  
年間売上高：(2012年度単独) 968億円  
(2012年度連結) 1,378億円  
従業員数：(単独) 2,006名(出向者除く)  
(連結) 8,518名



■ ウォッチ事業  
■ 電子デバイス事業  
■ システムソリューション事業

■ 日本  
■ 海外

## セイコーホールディングスグループ



## 編集方針

- 本報告書はSIIグループのCSR活動をステークホルダーの皆様にお伝えするとともに、皆様からご意見をいただきCSR活動の改善につなげるツールと位置付けています。
- 本報告書に掲載していない詳細な情報や最新情報はホームページでご覧いただけます。  
<http://www.sii.co.jp/eco/>  
本文中には「eco」で表記しています。

## 参考にしたガイドライン

- 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」、GRI「サステナビリティレポートガイドライン第3.1版」、「ISO26000(社会的責任に関する手引き)」などを参考にしました。

## 報告対象範囲

- セイコーインスツル(株)の各事業所、営業所、ならびに関係会社。
  - 環境報告はISO14001認証取得拠点である国内7拠点、海外7拠点を中心に報告しています。
  - タイの製造拠点 Seiko Instruments (Thailand) Ltd. の環境データは、一時的に集計対象から除外しています。
  - ディスプレイ事業は撤退しました。
  - 2013年1月、計測分析装置の製造販売を行ってきたエスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社の株式を譲渡しました。
  - 2013年4月、水晶事業の開発・製造機能を会社分割し、100%子会社の「エスアイアイ・クリスタルテクノロジー株式会社」を設立しました。(旧栃木事業所)

## 報告対象期間

- 2012年度(2012年4月～2013年3月)の活動を中心に、一部それ以前からの取り組みや、直近の活動報告も含んでいます。

## お問い合わせ先

千葉県千葉市美浜区中瀬1-8 〒261-8507  
セイコーインスツル株式会社  
環境経営推進部 TEL: 043-211-1149 FAX: 043-211-8019 ホームページ: <http://www.sii.co.jp/eco/>

# トップメッセージ

## 新しい価値の創造によって社会へ貢献する

### 「時を創り、時を活かし、時を豊かに」

SIIは、自らのありたい姿を「時を創り、時を活かし、時を豊かに」と掲げ、腕時計メーカーとして「時」への探求を深めてまいりました。それを実現する基本姿勢であるSIIの理念は、「誠実・信頼・感謝」です。どのような仕事にも「誠実」に取り組み、社会やお客様との「信頼」関係を重んじ、全てのステークホルダーに対する「感謝」の気持ちを大切に、という意味を込めています。この理念を社員一同の基本姿勢として、日々努力を重ねています。

### 企業としてあり続けるために

企業の社会的責任はその範囲も深さも広がっています。今、地球上では困難な問題が山積し、1992年の地球サミットから20年が経った今でも、地球環境問題と多くの人々の貧困や人権の問題はまだ深刻です。これらの問題の解決なしには、未来の社会の繁栄や企業の持続的な発展もないと言える

でしょう。それらの現状をしっかりと認識し、SIIも社会を構成する一員として、持続可能な社会構築の一翼を担ってまいります。

### 求められる価値を提供し社会に貢献する

SIIは腕時計の技術を源とし、「匠・小・省」の技術理念のもと多岐にわたる技術を展開してきました。長年にわたって築き上げてきたSIIの財産といえます。今後はこれらの財産を活かしつつ、個々の技術をシステムとしてまとめあげて、新たな価値を創造していく所存です。

新たな価値の具体的な姿を教えてくれるのは市場であり、マーケティングこそ重要視すべきことです。市場との対話なしには、社会やお客様の求めている価値、未来に求められる価値を見出すことはできません。それらの創出に適した体制への変革も必要となるでしょう。マーケティングにより「匠・小・省」の技術を真に活かし、求められる価値を生み提供し、社会とお客様に貢献してまいります。

### 環境との調和を目指して

SIIが3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクト・グリーンライフ」を基本コンセプトとした「グリーンプラン」を策定して20年になります。その間、地球環境問題は企業にとってもますます重要な経営課題となり、取り組むべき課題も増えてきました。SIIではグループの環境方針を2013年1月に刷新し、今後も環境問題に真剣に向き合っていく決意を新たにしました。

地球温暖化に匹敵する課題として生物多様性保全があげられています。SIIでは事業活動が生態系サービスの恩恵を受け、また影響を与えていることを認識し、事業所における生物多様性と土地利用の関係性や、生物多様性と製品との関係性評価を実施しています。

また、「SIIグリーン商品制度」の拡充として、これまでのハードウェア製品だけを対象とした運用から、ソフトウェア・サービスでの運用を開始しました。今後も力を緩めることなく、「グリーンプラン」具現化に取り組み、環境保全に努めてまいります。

### 社員とともに

急速に変貌する世界に対応しながら、SIIが新しい価値を創造し提供する原動力になるのは、社員一人ひとりの力です。最前線にいる社員の不断の努力なくして経営は成り立ちません。私は、社員には、夢を持ち、そして目標を定め、変化する状況の中にあっても、その実現に強くこだわってほしいと思っています。そのためには、トップ自ら変化する社会や市場の未来の姿をいち早く洞察し、目指す方向性を示すことが重要な責務だと認識しています。

SIIが新しい価値を創造し、社会に貢献できる企業としてあり続けるよう、その実現に向けて社員とともに力強く前進していく所存です。

本報告書をお読みいただき、忌憚のないご意見、ご指導を賜れば幸いです。心よりお願い申し上げます。

2013年7月

セイコーインスツル株式会社  
代表取締役社長

村上 斉

### 理念とコーポレートアイデンティティ

理念

誠実・信頼・感謝

コーポレートアイデンティティ

時を創り、時を活かし、時を豊かに

### SII企業行動憲章

(2005年10月制定 2011年4月改定)

SIIグループは、経済社会の発展を担うとともに、いつの時代にあっても社会から必要とされ、信頼される存在でありたいと考えています。SIIグループ各社および社員は、高い倫理観を持って社会的責任を果たしながら、社会とステークホルダーへ新しい価値を提供し、持続可能な社会の創造を目指します。

#### ■ 第1条 価値の提供 ■

● 技術の研鑽に努め、社会的に有用で、安全性と品質が高い製品やサービス、新しい価値を提供し、お客様の満足と信頼の向上を図ります。

#### ■ 第2条 公正・誠実な企業活動 ■

● 遵法はもとより、個人情報・顧客情報ははじめとする各種情報を正しく管理し、倫理的で公正、誠実な企業活動を行います。  
● 政治や行政との健全な関係を保ち、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力には、毅然とした態度で対応します。

#### ■ 第3条 人間尊重と人材育成 ■

● 社員の人格と多様性を尊重し、安全で働きやすい環境を実現します。成長を支援し、公正な評価と処遇に努めます。  
● 事業活動において関わる全ての人々の人権と人格を尊重します。  
● 高い倫理観を持ち、創造性と専門性に優れた人材の育成に努めます。

#### ■ 第4条 環境との調和 ■

● 環境問題への取り組みは人類共通の課題と認識し、主体的に行動します。

#### ■ 第5条 社会との共存 ■

● 社会と対話し、適正な情報開示を行い、開かれた企業を目指します。  
● 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行います。  
● グローバルな事業活動においても、この憲章に従いながら、ステークホルダーの関心に配慮した経営を行い、各国の発展に貢献します。

#### ■ 第6条 経営トップのコミットメント ■

● この憲章の精神を率先垂範の上、実効ある体制を確立し、SIIグループへの徹底を図るとともに、取引先にも促します。  
● この憲章に反する事態が生じたときは、自らが問題解決にあたり、説明責任を遂行の上、自らを含め厳正な処分を行います。

# CSR活動の目標と実績

2012年度は、活動方針を「多様な期待に応えるグローバルなCSR活動を推進する」とし、CSR活動に取り組みました。

◎：目標以上に達成 ○：ほぼ達成～達成 △：達成度70%以下 ー：評価対象外

2012年度の目標・計画		2012年度の主な実績		評価	2013年度の目標・計画
価値の提供	お客様満足 <small>関連ページ 8P</small>	● お客様満足度向上への継続的取り組み	● お客様満足度向上への取り組みを実施	○	● お客様満足度向上への継続的取り組み
	品質向上 製品安全 <small>関連ページ 7P</small>	● ISO9001統一認証化として第2期、第3期の10部門を実施 ● 製品安全・技術法規制点検の実施と指摘問題点の100%改善 ● 製品安全教育(2回/年)と各国技術法規制セミナー実施  ● 製造部門を対象に業務プロセス点検を実施	● 第2期、第3期の10部門を統一認証化(合計18部門の統合を完了) ● イリーガル試験の実施状況確認を重点に13部門36新モデルにて実施 ● 入門講座2回・ヒューズの安全アプリケーション1回・リスクアセスメント3回の計6回実施 ● Fコスト低減活動と内部品質監査の実施状況に焦点を絞り、6事業・9拠点で実施	○ ○ ○ ○	● イリーガル試験の実施状況確認を重点として12部門にて実施 ● 製品安全・技術法規制に関するセミナーを4回実施  ● 開発・設計・生産技術の効率化などを中心に、19部門で実施
	ユニバーサルデザイン <small>関連ページ 8P</small>	● グラフィック・ユーザー・インターフェイス(GUI)の評価項目の詳細設定 1件 ● グリーンデザイン評価体制の検討 1件	● 電子辞書の操作画面など3製品にGUIを実施 ● グリーンデザイン意識調査アンケートの実施、評価体制の検討	○ ○	● グリーンデザイン意識調査アンケートの分析、事例紹介キャラバン実施、評価項目の整備
	購買活動 <small>関連ページ 7P</small>	● リニューアル後テキストによるバイヤー教育、効率化後購買監査およびサプライヤー認定制度の監査頻度/認定率向上	● リニューアル後バイヤー教育の実施(受講者104名計画どおり)、購買監査国内全調達部門実施、サプライヤー認定率UP(国内95%、海外70%)	○	● バイヤー教育、購買監査、サプライヤー認定制度の継続実施、管理レベルの維持/向上
公正・誠実な企業活動	コンプライアンス <small>関連ページ 9P</small>	● 海外拠点でのSII行動規範の周知徹底、行動ガイドラインの作成と周知徹底および内部通報制度の確立と周知徹底 ● オンライン形式でのコンプライアンスクイズの継続実施(毎日実施・年1回定例実施)  ● コンプライアンス意識調査の定例実施	● 海外拠点でのSII行動規範の周知徹底、内部通報制度の確立と周知徹底 ● オンライン形式でのコンプライアンスクイズの継続実施(毎日実施・年1回定例実施) ● 経営幹部へのコンプライアンス意識啓発活動を4回実施 ● コンプライアンス意識調査の定例実施(年1回定例実施)	○ ○ ○ ○	● 海外拠点での行動ガイドラインの作成と周知徹底 ● オンライン形式でのコンプライアンスクイズの継続実施(毎日実施・年1回定例実施) ● 経営幹部へのコンプライアンス意識啓発活動の継続実施 ● コンプライアンス意識調査の継続実施(年1回定例実施)
	リスクマネジメント <small>関連ページ 10P</small>	● 本社部門のRMの継続推進、事業部門のRM重点項目の推進 ● 海外拠点の緊急連絡体制整備推進、拠点防災体制の見直し	● 本社部門で合計36項目のリスクに対して対応策を実施 ● 海外拠点の緊急連絡網の構築・運用	○ ○	● 全社リスクマネジメント活動の継続・推進
人間尊重と人材育成	人権の尊重 <small>関連ページ 11P</small>	● (海外拠点)人権宣言を10拠点、行動規範を1拠点、行動ガイドラインを18拠点で作成 ● タイ拠点における新人事制度を構築し2013年度初めより導入	● 人権宣言『人間尊重の精神』の文書化は7拠点が終了 ● 行動規範の母国語化はタイの拠点を除き終了 ● 行動ガイドラインの作成はタイの拠点を除き、作成に着手	○ ○ ○	● 人権宣言『人間尊重の精神』の文書化をすべての拠点で終了 ● タイの拠点の行動規範の母国語化終了 ● 行動ガイドラインの各拠点版の作成を13拠点で終了
	安全と健康 <small>関連ページ 12P</small>	● 救命講習を国内6拠点にて実施 ● SIIグループ総合安全点検(自主点検)を国内全拠点と海外製造拠点にて実施  ● 特定健康診断受診率95% 特定保健指導実施率45%*1	● 救命講習を国内6拠点にて実施(159名受講) ● SIIグループ総合安全点検(自主点検)を国内全拠点と海外製造拠点にて実施  ● 特定健康診断受診率 77.5% 特定保健指導実施率 25.5%*1	○ ○ △	● 救命講習を国内6拠点にて実施 ● SIIグループ総合安全点検(自主点検)を国内全拠点と海外製造拠点にて実施 ● 自主点検実施後に現地確認を実施 ● 特定健康診断受診率向上 79%
共存 社会との	地域貢献 <small>関連ページ 14P</small>	● 各拠点での地域貢献の継続実施	● 各拠点で地域清掃など地域貢献を実施	○	● 各拠点での地域貢献の継続実施
	育成支援 <small>関連ページ 14P</small>	● 各拠点での体験学習、インターンシップなどの受け入れ継続	● 各拠点で体験学習、インターンシップなどを受け入れ	○	● 各拠点での体験学習、インターンシップなどの受け入れ継続
環境との調和	環境配慮型製品 <small>関連ページ 17P</small>	● SIIグリーン商品の売上比率の向上 ● (一般製品) 96% ● (大型製品) 55%	● 99.1% ● 70.4%	◎ ◎	● (一般製品) SIIグリーン商品の売上比率を98%以上 ● (大型製品) SIIグリーン商品の売上比率を55% 2014年度60% 2015年度65%
		● SIIハイグレードグリーン商品の創出数向上 ● 創出数4製品以上	● 4製品	○	● SIIハイグレードグリーン商品の創出数4製品以上
	製品含有化学物質 <small>関連ページ 20P</small>	● 製品へのカドミウム、六価クロム、水銀、鉛の非含有 ● 非含有を95%以上に維持*2	● 97.7%	◎	● 製品へのカドミウム、六価クロム、水銀、鉛の非含有を95%以上*2
		● 製品へのポリ塩化ビニルの非含有 ● 非含有を95%以上に維持*3	● 95.5%	◎	● 製品へのポリ塩化ビニルの非含有を95%以上*3
	地球温暖化防止 <small>関連ページ 19P</small>	● エネルギー起源のCO <sub>2</sub> 排出量の削減 ● (国内拠点) CO <sub>2</sub> 排出量を原単位1%以上向上 総量:67,349トン-CO <sub>2</sub>	● 総量:60,063トン-CO <sub>2</sub> 前年度比-7.2%	◎	● (国内拠点) エネルギー起源のCO <sub>2</sub> 排出量を原単位1%以上向上 総量:66,122トン-CO <sub>2</sub> 2020年度末までに1990年度比25%削減
		● (海外拠点) 拠点ごとにCO <sub>2</sub> 排出量を前年度比1%削減	● <<参考値>> 総量:22,269トン-CO <sub>2</sub> 前年度比-27.4%	-	● (海外拠点) 拠点ごとにエネルギー起源のCO <sub>2</sub> 排出量を前年度比1%削減
	資源循環 <small>関連ページ 19P</small>	● 廃棄物の再資源化率の向上 ● (国内拠点) 再資源化率90%以上 ● (海外拠点) 拠点ごとに再資源率を前年度比3ポイント向上	● 94% ● <<参考値>> 58%	◎ -	● (国内拠点) 廃棄物の再資源化率を90%以上 ● (海外拠点) 拠点ごとに廃棄物の再資源化率を前年度比3ポイント向上
		● 水使用量の削減 ● (国内拠点) 前年度比1%削減:814千m <sup>3</sup> *4 ● (海外拠点) 前年度比1%削減	● 643千m <sup>3</sup> 前年度比-22% ● <<参考値>> 357千m <sup>3</sup> 前年度比-42%	◎ -	● (国内拠点) 水使用量を前年度比1%削減:637千m <sup>3</sup> ● (海外拠点) 水使用量を前年度比1%削減
		● 事務用紙使用量の削減 ● (海外拠点) 前年度比3%削減	● <<参考値>> 15.1トン 前年度比-19%	-	● (海外拠点) 事務用紙使用量を前年度比3%削減
	化学物質管理 <small>関連ページ 20P</small>	● 化学物質*5の排出量の削減 ● (国内拠点) 前年度比維持:31.4トン*4	● 28.9トン 前年度比-4%	◎	● (国内拠点) 化学物質*5の排出量を前年度維持
生物多様性保全 <small>関連ページ 20P</small>	● 生物多様性と事業活動との関係性を評価(土地利用状況)	● 盛岡セイコー工業(株)にて土地利用状況の評価を実施	○	● 生物多様性と事業活動との関係性を評価(土地利用状況)	

\*1 集計上の都合で実績が1年遅れとなります。\*2 EU圏向け製品は2006年5月末に全廃達成しました。  
\*3 安全規格上で使用するものや代替が困難なものは除きます。\*4 2011年度集計にミスがありましたので今回修正しました。  
\*5 ここではPRTR法(特定の化学物質の取扱い、環境への排出量を把握・集計し公表する仕組み)対象物質、HFC類、PFC類、SF<sub>6</sub>、VOCをさします。

# 価値の提供

## 価値の実現

### 品質に対する考え方

「お客様価値を創造するQ品質、Cコスト、D納期、S製品安全およびサービスを提供する」これはSIIグループの品質基本方針です。品質のみならずコストも納期も、そして製品の安全性も含めお客様にご満足いただきたいというSIIの強い意志が込められています。

### ISO 9001の統一認証化

SIIでは品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001の認証を取得しています。

さらなる全社的な品質保証体制の強化を目指し、従来の各事業部門や関連会社単位での認証から、全社統一での認証に向けて取り組み、これまで18部門の統一化を完了しました。

### 開発段階からの品質の作りこみ

品質問題やバラツキの原因は、多くの場合、開発・設計段階に原因があります。SIIが品質向上活動として特に力を入れて推進しているのが、この開発・設計段階で品質を作りこみ、技術完成度を徹底的に高めることです。

その施策として、品質工学や統計的手法、3次元CAD、CAE、機器分析を活用した技術者の思考力の向上や、設計条件や加工条件のパラメータの同時最適化による品質ばらつき最小化などを、品質保証、研究開発、生産技術、分析評価等の関係部門が共同で取り組んでいます。

### 安全・安心を作りこむ品質保証

SIIの製品安全への基本的な考えは、「お客様へ安全な製品、サービスを確実に提供し、お客様の安心と信頼を高めること」です。継続的な製品安全教育を実施し、製品安全意識の向上と安全技術者を育成しています。

また、製品安全連絡会と製品安全技術検討ワーキンググループを設置し、全製品について定期的に製品安全・技術法規制点検を行い、製品の安全性と各国法規制への適合を検証しています。

SIIでは、万が一、SIIの製品による事故が発生した場合は、10分以内に経営トップへ報告し、同時に問題の早期解決と再発防止を図った上で、全社で情報の共有化と水平展開を進めています。



### グローバルな業務プロセス点検

本社品質保証部門による「業務プロセス点検」を、海外を含めた全事業部門を対象に実施しています。これは品質を作りこむために、開発から製造にいたる業務の全プロセス実施の確実性、意識レベル、改善の進捗などを点検するものです。他部門の参考になる事例は、全社に水平展開しています。

### 安全・品質情報の開示

消費生活用製品安全法の施行に合わせ、SIIホームページに「重要なお知らせ」アイコンを設置しています。SIIの製品の安全・事故情報及び重要品質情報を、速やかに且つ的確にお客様にお伝えし、お客様の不利益を最小限に食い止めるよう努めています。

[Web](#) 製品に関する大切なお知らせ

## サプライヤーの皆様と共につくりあげる価値

### サプライチェーンにおけるCSRの考え方

SIIが社会的責任を果たしていくためにはサプライヤーの皆様との協力が不可欠です。SIIは購買方針の中でも「サプライヤーパートナーシップの強化」を掲げ、公正で誠実であることを基本にサプライヤーの皆様とともにCSRレベルの向上に努めています。

### サプライヤー認定制度

2004年度に開始したサプライヤー認定制度に基づき2012年度末時点で国内では約1,500社のサプライヤーを認定しています。2012年度は海外拠点も直接取引している直材サプライヤーの7割以上について認定審査を完了しました。引き続き認定率100%を目指します。

### 下請代金支払遅延等防止法(下請法)の遵守

下請法は国内の購買活動において特に重要な法律です。SIIでは、本社に下請法事務局を置き、日常業務における適切な指導、教育等を通じてグループの購買関係者との連携のもと下請法の遵守に取り組んでいます。

### 購買リスク管理

製品を提供するメーカーとして、購入部品の供給停止のリスクを最小限に抑えることは重要です。購買部門では、地震などの災害発生時に迅速に対処できるよう、代替先や代替品の選定はもとより、製造拠点所在地も考慮しています。

### 紛争鉱物への対応

SIIは、コンゴ民主共和国および周辺諸国における人権侵害、不正に関わる組織の資金源とされる紛争鉱物問題を、国際的な重大問題と認識しています。この問題に適切な対応を図ることが重要と考え、2012年3月に「SIIグループ紛争鉱物対応方針」を制定しました。

サプライヤーの皆様にもご協力をいただきながら、紛争鉱物の使用禁止を推進していきます。

[Web](#) SIIグループ紛争鉱物対応方針

## 新しい価値の創出

### 知的財産活動

SIIは、知的財産を事業活動上の重要資源と考え、開発などの成果の知的財産としての獲得とその活用に積極的に取り組んでいます。中・長期方針として「知的財産を尊重・重視する企業風土の醸成」を掲げ、知的財産部門、研究開発部門、事業部門が三位一体の活動を行っています。

2012年度はより効果的な特許の活用を目指し、保有特許の見直しを進めました。その結果、特許保有件数は2013年4月現在、国内で約2,300件、海外では約3,100件と若干減少しましたが、出願・権利化活動は盛んであり、2012年度の特許査定件数は増加しました。

### ユニバーサルデザイン(UD)への取り組み

SIIのUDの基本的な考えは「人に誠実であること」です。使いやすさや美しさの追求だけでなく、信頼や快適さなど価値が提供できるように、開発者とデザイナーが一体となって取り組んでいます。

### SII独自の「SMART UX」を実現

DAYFILERは、機能だけでなく、使うことの心地よさや楽しさを追求しSMART UX (スマート ユーザーエクスペリエンス) を実現した新しい電子辞書です。電子辞書として初めて、静電式のカラータッチパネルを採用し、スマートフォンのような快適で自在なタッチ操作を可能にしました。表示文字には拡大縮小に最適なスクロールフォントを採用することで視認性にも優れています。また、携帯性を考慮したシンプルなデザインの中にも、堅牢性を向上させるなど随所に工夫が施されています。

DAYFILER DF-X10000



### お客様相談室

SIIお客様相談室では、お客様からのお問い合わせやご相談などに、迅速で正確、誠実な対応を心掛けています。さらに寄せられたご意見、ご要望、お困りの声は、関係する事業部と共有し、製品の品質改善など有効に活用させていただいています。

また、製品の取扱相談窓口や修理サポート・サブライ窓口の対応改善などを提言し、お客様にご満足いただけるアフターサービスの品質向上にも力を注いでいます。

# 公正・誠実な企業活動

## CSR

### CSR委員会

SIIでは代表取締役社長を委員長とし本社部門長を常任委員として構成するCSR委員会を設置しています。CSR委員会では、コンプライアンスおよびリスクマネジメントを含むCSR活動の推進に伴う重要課題・案件を審議・決定し、その活動状況は定期的に経営層へ報告しています。

## コーポレート・ガバナンス

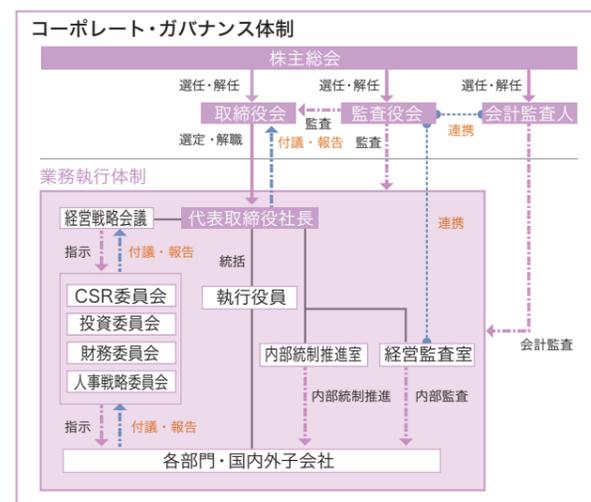
### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

SIIは、ステークホルダーの皆様の信頼に応えていくには、企業競争力を強化する効率的な仕組みと、合理的で透明性のある企業運営の仕組みにより、グローバルな環境変化に迅速に対応できる体制を構築し、確実に運用していくことが重要だと考えています。SIIでは企業価値の向上に向けて、経営の透明性・公正性の確保を重要な経営課題の一つと位置付け、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

### コーポレート・ガバナンスの体制

取締役会は、取締役15名で構成し、業務執行の監督及びSIIグループに関する重要事項の決定を行っています。取締役会は毎月開催（2012年度14回）し、特別な利害関係のない独立した社外監査役より妥当性・適正確保の観点から適宜質問・助言等がなされています。2012年度の社外監査役の取締役会平均出席率は100%でした。

監査役会は、監査役4名（うち社外監査役2名）で構成してい



ます。監査役会で決定した監査方針・計画に従い、監査役が重要会議への出席や各部門との会合等を通じて情報を入手し、監査役会での意見交換により、取締役の職務執行を監査する体制になっています。監査役会は、ほぼ毎月開催（2012年度9回）し、社外監査役の監査役会平均出席率は100%でした。

会計監査人は、有限責任あずさ監査法人を選任し、監査役と監査法人が監査計画を把握し、定例会合で情報を共有して監査を行っています。

業務執行体制は、業務執行と監督を分離する執行役員制度を導入しています。

### 内部統制システムの整備

SIIでは、取締役会で決議した「内部統制システムの基本方針」に基づく整備状況について、半期毎に取締役会に報告され、取締役会が整備状況を監督しています。

2008年には、内部統制の全社的推進組織として「内部統制推進室」を新設し、従来の「経営監査室」とともに、内部統制システムの整備に努めています。

金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制としては、親会社であるセイコーホールディングス株式会社の財務報告に係る内部統制の評価及び報告のため、連結子会社としてSIIグループの内部統制の経営者評価を行い、親会社に報告しています。

[Web](#) 内部統制システムの基本方針

## コンプライアンス

### コンプライアンス推進体制

SIIではCSR委員会がコンプライアンス推進の機能を担い、コンプライアンス意識の普及啓発、問題事例発生時の対策検討などを行っています。

内部統制システムの基本方針に従い、国内外子会社におけるコンプライアンス体制の継続的な充実・向上を図っています。海外子会社での体制整備に向けては、各海外子会社で選任したコンプライアンス推進員によりコンプライアンス体制充実のための諸活動を推進しています。

### SII行動規範・行動ガイドライン

SII企業行動憲章の内容を実践し、SIIグループの全ての役員・社員が遵守しなければならない基本的事項を定めた「SII行動規範」を制定し、国内外の各拠点で継続的にSII行動規範の徹底を図っています。

また、日本国内では「行動ガイドライン」を制定しています。このガイドラインは、具体的かつ詳細な行動基準を明示したもので、現在は海外子会社向けのガイドラインを作成しています。

[Web](#) SII行動規範

### 内部通報制度

コンプライアンスに反する行為を通報できるよう、社外弁護士を窓口とするSIIヘルプラインを設置しています。

SIIヘルプラインは、社内だけでなく取引先の皆様からも、当社社員によるコンプライアンスに反する行為について情報提供いただけるようになってきました。また、社内に相談窓口も設置しています。なお、通報・相談の内容は定期的に経営トップおよび監査役に報告しています。

2012年度のSIIヘルプラインへの通報は5件、相談窓口への相談件数は9件でした。

### コンプライアンス教育

経営トップから社員一人ひとりに至るまでコンプライアンスを徹底するために、2012年度も、国内のSIIグループの全ての役員・社員に回答必須のオンラインクイズを実施しました。

また、経営幹部に対するコンプライアンス意識啓発教育も引き続き定期的に行いました。

### 2012年度 コンプライアンス意識調査の結果

コンプライアンス意識の浸透度、定着度を把握するコンプライアンス意識調査を、継続的に実施しています。

Q1 自分の業務に関する法律・ルールを認識・意識して仕事をしていますか？



Q2 法律・ルールの遵守は重要だという意識が、あなたの部門には浸透していますか？



■ 認識・意識している  
■ どちらともいえない  
■ 認識・意識していない

■ 浸透している  
■ どちらともいえない  
■ 浸透していない

## リスクマネジメント

### 全社リスクマネジメントの取り組み

SIIではCSR委員会を中心として全社的なリスクマネジメントを推進しています。SIIの直面するリスクを影響度、発生頻度により評価し、重点的に対処すべきリスクの影響等を低減する体制整備を進めています。

また、委員会は、リスクマネジメントに関する活動の決定等

を通じ、さまざまなリスクを識別・共有し、重要リスクに対する対応策の実施状況を四半期毎に確認しています。「リスクマネジメント基本規程」に基づき、経営会議体での報告や、経営トップによる定期的なレビューを通じて、経営と一体となったリスクマネジメントのPDCAを回しています。

### 事業継続上のリスクマネジメント

SIIの製造拠点では、リスク発生時においても継続的な製品の供給を目指し、生産を中断させないリスクマネジメントを実施しています。職場における作業改善から、設備投資を必要とする抜本的な改善まで、広範に取り組んでいます。

大規模災害の発生時には、交通遮断などから、一時的に帰宅が困難になることが予測されるため、水・食料、防寒シート、その他の防災備蓄を計画的に準備しています。

## 情報セキュリティ

### 情報セキュリティの考え方

企業の社会的責任として、お客様をはじめ、ステークホルダーの皆様からお預かりする情報を保護し、漏洩を防ぐことは極めて重要です。また、内部統制上も情報セキュリティは重要な課題として取り組んでいます。SIIでは情報システム上で取り扱う全ての情報を、グループの重要な資産と位置づけ、情報セキュリティの強化を図っています。「情報システムセキュリティ方針」と「情報システムセキュリティ管理規程」を基本原則として、管理体制と各種ルールを定め、体系的かつ効率的な管理を進める一方、各種教育や事業部門及び関連子会社への指導を通じて、運用の徹底を図っています。

[Web](#) 個人情報保護ポリシー

### 可用性の向上

システムの安定稼働とデータの保護を強化するため、仮想化技術を用いて、情報システムのサーバー・ストレージを集約・冗長化するだけでなく重要なシステムのディザスタリカバリーサイトの構築も強化しています。あわせて、省電力化・省スペース化によるグリーンITにも取り組んでいます。

東日本大震災により課題として明らかになった通信障害の対策として、インターネット通信環境の抜本的な改善に取り組んできました。国内主要拠点の回線の冗長化を完工し、メールシステムをはじめとしたコミュニケーション基盤についても、クラウドサービスへ移行させることで、より可用性の高い環境を実現しました。

# 人間尊重と人材育成

## 社員に対する支援

### 人権の尊重

SIIではSII企業行動憲章で、事業活動において関わる全ての人々の人権と人格を尊重すること、社員の多様性を尊重することを明示し、グループ内での徹底を図っています。

現在、SII企業行動憲章に謳っている「人間尊重」について、海外の関連会社では各々の文化・慣習を反映しながら文書化を進め、完成後は各拠点での社内掲示など啓発活動に努めていきます。この「人間尊重」のメッセージに込められた精神に基づいて、ステークホルダーに対して行動するように社員に徹底していきます。

### SIIグループの人事制度の統一

SIIでは、社員は平等で公平に評価・処遇されるという考えのもと、国内・海外のどの拠点においてもSIIグループとして同じ価値観・評価基準に基づく人事制度の構築を進めています。この制度は、各々の国の法律遵守はもちろん、文化や慣習にも配慮しながら、国内・海外関係会社の人事部門と本社人事部門とがコミュニケーションをとりながら構築しています。

### 人材の育成

SIIの目指す社員像は高い倫理観を持ち、創造性と専門性に優れた人材です。人事部門による階層別教育、品質・環境・知的財産など職種別の専門教育や職場におけるOJTなどを通して人材育成を行っています。この他、新入社員については「メンター制度」を導入しています。この制度は新入社員一人に対して一人の先輩社員をメンター（良き相談相手）として任命し、指導や支援を継続的に行うものです。

また、SIIでは自分のキャリアや評価に対して自ら責任を持つ自立・自己責任型社員の育成に注力しています。「社内公募制度」、「フリーエージェント（FA）制度」、「公募留学制度」などの制度を設け、社員個人の意欲を尊重し、キャリア選択の幅を広げる支援をしています。



メンター・メンティペア研修

### ワークライフバランスの実現

SIIでは社員の一人ひとりが能力を十分に発揮できるように、仕事と家庭生活との両立を支援する各種制度を定め、継続的な充実も図っています。なかでも介護休職制度は、対象家族のうち一人については3年間の休職を取得が可能です。

2010年10月からは時間単位休暇制度を導入し、より柔軟な働き方が可能になりました。今後も継続的に働きやすさを追求していきます。

#### 【制度と利用実績】

制度	年度	2010年	2011年	2012年
育児休職		20名	29名	26名
育児短時間勤務		36名	36名	32名
介護休職制度		2名	1名	0名
介護短時間勤務		1名	2名	0名

### 技術・技能の伝承

SIIでは、技術・技能の伝承および後継者の育成を目的に、高度な専門性を保有している社員をプロフェッショナル人材として認定する「プロフェッショナル人材制度」を導入しています。この制度には、研究開発、設計、生産技術などを専門とするスペシャリストと、加工、組立など製造業務を専門とするマイスターのコースがあり、各々3段階のレベルが設定されています。2013年3月現在、29名のスペシャリストと10名のマイスターが認定され、それぞれの分野で活躍する一方、後継者育成にも力を入れています。

なお、2013年度から、製造系の海外拠点のコア技能を保有する人材を対象に、マイスター制度を導入する予定です。また、コア技術を保有する人材を対象にしたスペシャリスト制度についても順次、導入する予定です。

### 技能試合を開催

大連精工電子有限公司では、金属部品の加工など熟練した技能を要する作業が多く、技能の習熟、伝承、多能工化が現場での重要なテーマです。毎年、各職場で技能試合を開催し技術を競い合うことで、継続的なレベルアップを図っています。2012年度も26の技能について、総勢331名が腕を競い合いました。



## 安心して働ける職場環境

### 安全衛生の考え方

すべての社員が「安全で、安心して働ける」、すべての社員が「心身ともに健康である」ことが企業を支える根幹をなすものと考えています。2008年に定めた「SIIグループ労働安全衛生方針」のもと、SIIグループすべての拠点において、高い安全意識を持って事業活動を行っています。

[Web SIIグループ労働安全衛生方針](#)

### SIIグループ安全衛生管理体制と情報の共有化

SIIでは事業所単位の安全管理体制に加え、グループ横断で安全管理を統括するSIIグループ安全管理運営機構を構築しています。拠点の担当者で構成する「SIIグループ安全管理担当者会議」では、各拠点の活動報告のほか、法令改正や社内ルールの確認など、安全に関する情報の共有化を図りました。

今後は海外拠点との情報の共有化も視野に入れながら、グループ内の安全管理レベルのさらなる向上に取り組んでいきます。

### 安全に関する点検と調査

SIIでは安心して働ける労働安全衛生環境の維持向上のため、毎年、事業所毎に行なう職場安全巡回等に加え、海外の製造拠点を合わせたSIIグループ全拠点を対象に、「総合安全点検」を実施しています。

総合安全点検は、工場火災予防、作業環境リスク、建物設備安全、事業所セキュリティの4つの観点から点検を実施し、点検結果は、安全管理担当者会議にて報告、水平展開し、職場の安全性の向上を図っています。

### 普通救命講習会の実施

AED（自動体外式除細動器）の導入に伴い、各拠点では普通救命講習会を定期的に開催しています。これまで国内拠点で延べ1,168名（2012年度は159名）の社員が受講し、救命技能を身につけました。SIIの社員が1人でも多く救命技能を身につけられるように、今後も継続的に救命講習を実施していきます。

### 社員の心身の健康を支援

健康は個人の財産といえます。SIIでは社員が心身ともに健康であることを目指し、健康保険組合・労働組合と一体となり健康づくり活動を推進しています。

2008年4月から特定健康診査と特定保健指導が開始されました。2012年度も、メタボリックシンドロームに着目し、40歳以上の個人を対象とした特定保健指導を実施しました。定期健康診断結果に基づいて、産業医や看護師による保健指導を行い、生活習慣の身近な改善を指導し、その成果も徐々に現れてきました。

また、早期発見・早期治療につながるように、男性には前立腺がん、女性には子宮頸がんの検診を実施しています。この検診は40歳以上の扶養家族も受けることができます。

### 家族と一緒に健康づくり

SIIの各拠点では肩こり・腰痛予防などに対して実践を交えた健康セミナーや、家族も一緒に参加できるウォーキングイベントを継続的に開催しています。2012年度は、グループ内で23回開催し、延べ620名がウォーキングに参加しました。毎回楽しみに参加する社員や家族が増えています。

### 健康相談窓口の設置

SIIでは外部専門機関と提携し、24時間体制いつでも健康相談が可能な窓口を設置しています。

### 栃木労働局長優良賞を受賞

エスアイアイ・クリスタルテクノロジー株式会社（以下、SCT）は、高い水準の労働安全衛生活動が認められ、栃木労働局長優良賞を受賞しました。

SCTは操業以来約55年にわたって休業災害（休業4日以上）がなく、リスクアセスメントやメンタルヘルスに力を入れていきます。全国THP（Total Health Promotion Plan）推進協議会より進歩賞を受賞するなど、これまでも高い評価をいただき今回の受賞となりました。



# 社会との共存

## 地域・社会とともに

### 学術振興による社会貢献



公益財団法人 新世代研究所 (略称:ATI) はSIIの全面出資により設立されました。ナノサイエンスにおける新しい研究概念の創出と、異分野の研究領域間の融合をめざした研究活動などを通じて、人類社会の発展とその基盤である学術の振興に寄与することを目的としています。ナノ計測技術からバイオロジーに至る研究会活動の推進、若手研究者への研究助成、また、市民講座ATI公開フォーラムなどの事業を行っています。

2012年度からは公益財団法人として新制度のもと、よりユニークな学術活動推進事業へ取り組んでいます。

Web [ATI http://www.ati.or.jp/](http://www.ati.or.jp/)

#### ■ ATI研究助成：若手研究者への研究助成

ATI研究助成はナノサイエンスをキーワードとし、自然科学における萌芽的・独創的かつ新しい研究領域を切り拓く可能性がある研究を行う若手研究者への研究費助成を、公募により行うものです。

本研究助成事業は1993年の開始以来、約260件の研究テーマに対し助成を行っています。2012年度は約100件の応募があり、ナノ計測技術領域からバイオサイエンス領域に至る12件が選考委員会により採択されました。

本研究助成が研究の進展に寄与することを期待いたします。

#### ■ 合同研究会：異分野研究領域の融合

新しい科学概念が異分野研究領域間の融合により生まれることを期待して、ATIの擁する全5研究会が参画する合同研究会を開催しています。2012年度は「スピント生命の融合」として、進展著しいスピントロニクスとその応用の一つであるバイオ研究 (バイオスピントロニクス) の展望を考察しました。



合同研究会  
「スピント生命の融合」

### シンガポールにおける技術振興

シンガポール駐在員事務所<sup>※</sup>は、海外研究開発の拠点としてシンガポール科学技術研究庁傘下の国家研究機関や、シンガポールの大学と共同開発を推進しています。

シンガポールの国立大学との共同開発においては、既存生産プロセスの革新による生産性向上、高付加価値化、材料使用量の大幅削減を狙い、現地で採用した若手研究者が新技術開発を進めています。このような開発を通じて現地学生の研究指導なども行っています。

また、国立製造技術研究所 (SIMTech) とは、高精度かつ無駄となる材料をできる限り少なくする精密部品加工技術の開発を推進しています。これは、低コストで、資源効率性を高めた環境にやさしい加工技術を目指しています。

※現在はSeiko Instruments Singapore Pte. Ltd.の Research & Development Divisionに組織変更



ローカル研究者による  
新技術開発

### 「時計」を通じた社会貢献 ～メカ時計セミナー～

盛岡セイコー工業 (株) では、一般の方を対象に機械式腕時計の組立が体験できる「メカ時計セミナー」を開催しています。このセミナーは「機械式腕時計のファンを増やしたい」という思いを込めて、2007年より継続的に開催しているもので、これまで139名の方に参加いただいています。

セミナーは、初めての方を対象とした体験コースと少しレベルの高い初級コースからなり、SII製機械式ムーブメント搭載腕時計を教材として使用します。

第6回目となった2012年度は16名の方に時計の分解から組立までを楽しんでいただきました。



メカ時計セミナー

### 地域とのコミュニケーション

●盛岡セイコー工業 (株) は2008年より「地域とはじめる環境報告会」を開催しています。2012年度は地元の栗石町の住民の方々をはじめ総勢21名の方にご参加いただきました。会社概要と環境活動の説明・報告の後は、製造現場と屋外施設の見学を行い、意見交換会ではお褒めの言葉をいただきました。



●Seiko Instruments (Thailand) Ltd.では、定期的に寄付活動を行っています。2012年度は社員20名がAnghong県にあるTaljedchor寺院を訪問し、寺院で養護している子供たちへ、食料やスポーツ用品を寄贈しました。



●大連精工電子有限公司 (以下、DSI) は、大連市主催の「企業も市民もエコライフを実践しよう」がテーマの環境の日イベントに参加しました。DSIは環境に配慮した企業100社に選ばれ、環境法令の遵法と環境活動を確実に推進し社会的責任を果たしていくことを宣言しました。



### 地域清掃活動

SIIの各拠点では地域に根ざした清掃活動を行っています。

●Seiko Instruments Singapore Pte.Ltd.では2012年度の環境月間と併せて、Woodlands Water Front公園にて「公園をきれいにしよう活動」を企画・開催し、23名の社員が参加しました。



●Seiko Instruments (H.K.) Ltd.は海岸での清掃に力を入れています。2012年度は「カフェテリア・ニュー・ビーチ」と「カフェテリア・オールド・ビーチ」でクリーンアップ活動を行いました。社員とその家族23名が参加し、海岸の環境保全に貢献しました。



### 就業体験への協力

SIIの各拠点では、工場見学の受け入れや地元の児童・生徒の就業体験に継続的に協力しています。

●Seiko Instruments Singapore Pte Ltd.では、シンガポール日本人学校中学部の生徒5名を迎えて、受付業務やムーブメントの組立作業を体験してもらいました。



# 環境との調和

## SIIグループの環境経営

SIIでは3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクト・グリーンライフ」を基本コンセプトとするグリーンプランを策定し環境経営を実践しています。

### SIIグループ環境方針 2013年1月改定

#### ■ 環境理念

SIIグループは、企業活動と地球環境との調和をめざし、3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクト・グリーンライフ」を基本コンセプトとし、環境活動に取り組み、全ての生命と共生できる持続可能な社会の実現に貢献します。

#### ■ 環境活動指針

- 環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスを継続的に改善しながら、社会の要請に応えた先進的な活動に努め、ステークホルダー価値の向上を図ります。
- 環境規制の遵守はもとより、環境リスクの低減と汚染の予防に努めます。
- 「匠・小・省」※1の技術を礎に、以下を重点項目として取り組みます。
  - ライフサイクルにわたって環境に配慮し、加えて環境保全に貢献できる製品・サービスを提供します。
  - 環境に配慮した効率的なものづくりを積極的に推進します。
  - 全ての企業活動において省エネルギーを徹底し、地球温暖化防止に努めます。
  - 資源の有限性と貴重さを認識し、地球資源の責任ある

### グリーンプラン概念図



利用を図ります。

- 5) 化学物質によるリスクを低減させると共に、有害物質の排除を推進します。
- 4) グリーン購入を推進すると共に、製品含有化学物質の適切な管理を徹底します。
- 5) 生物多様性への影響とその恩恵を認識し、生物多様性の保全に努めます。
- 6) 社員の環境意識の向上を図り、一人ひとりが身近な生活においても環境保全に努めます。
- 7) 環境に関する社会貢献と説明責任を果たしながら、社会とのコミュニケーションを推進します。
- 8) サプライヤーの皆さまにも、本方針にご協力いただくよう推進します。

※1 「匠・小・省」: SIIの技術理念

### 環境マネジメントシステム

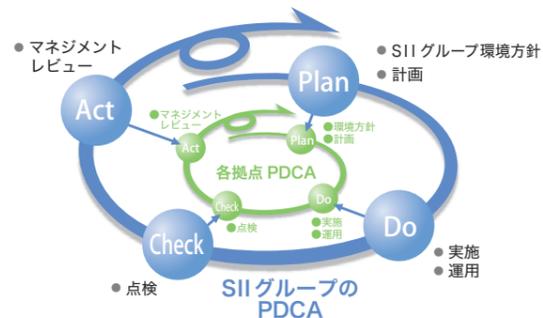
SIIは、グループ全体として、また各拠点においても国際規格ISO14001に則った環境マネジメントシステムを構築し、PDCAのマネジメントサイクルを確実に回すことで環境パフォーマンスの向上に努めています。

「SIIグループ環境方針」に基づき、環境活動における中期目標や年度目標を策定し、これらの目標は各拠点の環境マネジメントシステムによって展開されます。その活動実績は定期的に本社の環境経営推進部へ報告され、環境経営推進部では全グループを統括した環境マネジメントシステムを運用しています。尚、2013年1月、グループの環境方針を改定しました。

SIIは国内、海外の主要拠点でISO14001の認証を取得しています。グループとしての環境マネジメントの強化を目指し、国内拠点ではSIIグループ統合認証に向けて、2012年度

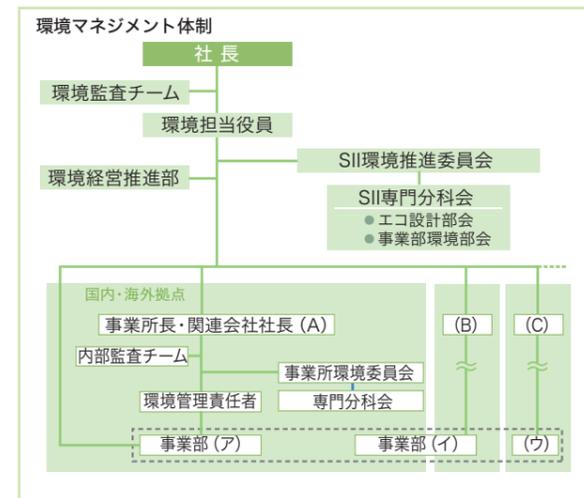
よりその体制整備に着手しました。海外拠点では新たに、電子部品検査や後工程加工を担う精工電子技術(上海)有限公司が認証取得しました。

Web ISO14001 認証取得拠点



### 環境マネジメント体制

SIIでは、社長のもと、環境担当役員を最高責任者として、SIIグループの環境マネジメントの推進体制を構築しています。環境経営推進部が事務局となり、各拠点や事業部門と協力しながら推進しています。SII環境推進委員会では、SIIグループの目的・目標の審議、各拠点からの活動報告や情報交換を行い、全グループで環境活動を着実に推進していくことを確認しています。



### 環境教育

SII本社が主催する環境教育は、一般教育、専門教育、社内資格者養成教育の3つに大別されます。その教育カリキュラムは毎年見直しを行い、最善な教育の実施に努めています。2012年度の本社主催の教育には160名(累計3,034名)が参加しました。また、各拠点でも独自に環境教育や啓発活動を実施しています。

### 環境保全ハンドブックの作成

大連精工電子有限公司(以下、DSI)では、2012年10月に「環境保全ハンドブック」を社員に配布しました。これは社員の環境意識を高めるために、DSIが独自で作成したものです。ハンドブックは地球環境問題の現状から、一人ひとりが取り組めることなど、約30ページからなり、社員の環境意識の向上から実際の行動につながる有効なハンドブックです。



### グリーン購入

SIIでは、品質や価格だけの判断だけでなく、環境への負荷ができるだけ少ないものを選ぶグリーン購入に取り組んでいます。生産材については「SIIグループ グリーン購入基準書」を用いてサプライヤーの環境管理体制やSIIが定めた所定の基準を満たした物品をグリーン物品として認定しています。

また、事務用品類については電子購買システムを利用した購入者によるグリーン購入が可能です。

Web グリーン購入

### 環境リスクマネジメント

SIIでは、各国の環境法規制からの逸脱や廃棄物・化学物質の不適切な管理による環境汚染、設備の老朽化や災害に伴う有害物質の流出など環境に関するリスクに対し、未然防止や継続的な低減に努めています。

水域や大気などへの排出については、各拠点ごとに法規制値よりも厳しい自主基準を設定し、管理しています。

廃棄物については、敷地内における適正な管理の他、廃棄物処理委託先の現地確認を定期的実施しています。

また、各拠点では緊急事態を想定し、その対応策やコミュニケーションに関する手順書を整備しています。定期的な手順書に基づいた緊急事態対応訓練を実施し、手順書の有効性を確認すると同時に、汚染の拡大防止の方法を実践で習得しています。



廃棄物処理委託先現地調査

### 内部環境監査

内部監査は、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスの継続的な向上を主眼に、客観性・独立性を保ちながら実施しています。監査員は、他の拠点や本社からも参加することにより、高い有効性と拠点間の情報交換による相乗的な効果を狙っています。

有効な内部監査の実施には監査員の力量が重要です。SIIでは内部監査員養成講座の他に、内部監査員のリフレッシュ講座を設け、監査員のスキルアップを図っています。

2012年度も国内・海外の各々の拠点で内部監査を実施し、その指摘内容は、力量・教育訓練及び自覚、環境側面、運用管理に関する指摘が多く、指摘件数の約半分を占める結果となりました。

# 環境との調和

## グリーンプロダクツの進化 ～環境に配慮した製品・貢献する製品～

SIIは、SIIの技術理念である「匠・小・省」をベースに環境に配慮した製品・貢献する製品を提供しています。

### SIIグリーン商品

SIIでは、2001年12月に「SIIグリーン商品ラベル」制度を導入、2006年10月には「SIIハイグレードグリーン商品ラベル」制度を導入し、製品自体の環境性能を確実に向上させてきました。

### グリーンプロダクツplus

製品自体の環境性能の向上に加えて、「SIIの製品が組み込まれることでお客様の製品の環境性能を向上できる」、また「人々が生活する環境の保全に貢献できる」、というこの考え方を『グリーンプロダクツplus』と名付け、製品やサービスの提供に注力しています。

### 提供範囲の拡大

これまでのハード製品(機器、部品等)での運用に加えて、2012年度は、新たにソフトウェア・サービスにもグリーン商品ラベル制度の運用を開始しました。

### クラウドサービス「TerioCloud」

認定第一号となったのは、デジタル図面の活用と長期保管を行なうクラウドサービス「TerioCloud(テリオクラウド)」です。建築図面等の図面原本をクラウドサーバーへデジタル出図し、建築現場ではiPad\*で大判図面を閲覧・加筆することができます。また、図面はクラウドサーバーで安全に長期保管が可能で、これらにより紙の使用を大幅に削減することができます。

\*iPadはApple Inc.の商標です。



### 評価の基本的な考え方

ソフトウェア・サービスの導入により、導入前に比べて環境負荷(CO<sub>2</sub>)が増加する量と削減する量を算出し、トータルでCO<sub>2</sub>の低減効果が見込める場合を認定条件とします。

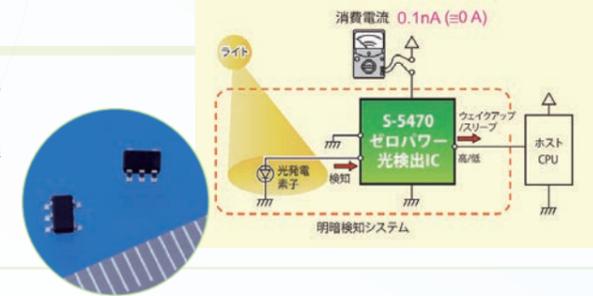
### CO<sub>2</sub>の増減を評価する項目

1) 物の使用、消費	紙、CD、消耗品など
2) 物の移動	トラック輸送など
3) 物の保管	図面、書類、機器などの保管
4) 人の移動	車、電車、バスなどによる移動
5) オフィススペース	人、機器などのスペース
6) 機器の電力使用	PC、プリンタ、サーバーなどの消費電力
7) ネットワーク利用	データ通信量
8) その他	上記以外でCO <sub>2</sub> の増減が見込めるものがある場合

### グリーン商品事例

#### ゼロパワー光検出IC S-5470シリーズ

LED等の光発電子が発する微弱な電流を検出して電子機器のオン/オフなどを行うICで、消費電力1nW(ナノワット)以下と、電力をほとんど消費しません。本ICを使用することで、電子機器の待機電力をゼロ(nW級)まで削減することが可能です。



#### PHS電話機 ENERUS (WX03S)

スマートフォンとの2台持ちに最適な機能を備えたPHS電話機です。大容量バッテリーを搭載し、USBケーブルを接続するだけでスマートフォンなどに給電が行える機能や、Bluetoothでスマートフォンと連携する機能を持ち合わせています。1台にさまざまな機能を持たせることで、省資源とユーザーの携帯性向上に貢献します。



### SIIハイグレードグリーン商品

必須	LCA 評価を実施している
選択	1. SIIグリーン商品基準評価項目のうち何らかの項目の環境配慮がトップレベル ● 「世界最小」「国内最小」「業界最小」など、トップレベルである ● 環境効率(=機能/環境負荷)が従来製品比の2倍以上 など
	2. 特徴的な環境配慮項目がある ● 原材料、加工方法などの環境負荷低減をトップランナーで実現 ● 他社にない斬新な技術で環境負荷低減に貢献 ● 組み込まれることでお客様の製品の環境性能向上に"大きく"貢献する、又は人々が生活する環境の保全に"大きく"貢献する など

### SIIグリーン商品

SIIグリーン商品基準評価項目による評価の平均点が3.5点以上	
No	環境配慮項目
1	使用時消費電力
2	待機時消費電力
3	製品の重量
4	再使用部品・リサイクル材料使用部品使用
5	使用済製品のリサイクル可能性
6	製品の長寿命化
7	物品への含有回避物質*の含有抑制
8	物品への条件付含有禁止物質*の含有禁止
9	物品への含有禁止物質*の含有禁止
10	梱包の小型化・軽量化
11	梱包での発泡材使用抑制
12	梱包での塩ビ、重金属使用回避
13	製造工程での省エネ
14	製造工程での省資源
15	製造工程での使用回避物質*の使用抑制
16	製造工程での使用禁止物質*の使用禁止
17	グリーン購入の実施
18	解体作業容易性
19	分別作業容易性
20	取説等への情報開示
21	お客様の製品の環境性能向上や人々が生活する環境の保全に貢献



### SII製品を支える「匠・小・省」の技術

SIIの技術理念  
**「匠」**: 一歩進んだものを、「小」: ミニマムサイズで、  
**「省」**: 環境にやさしく創ること。  
 これを「SYO」ismとして表しています。

2012年度のSIIグリーン商品の認定数は88製品(累計1266製品)、SIIハイグレードグリーン商品は4製品(累計54製品)となりました。各々の認定基準は、常に業界のトップレベルを見守りながら、2年に1度、基準の見直し・改訂を行い、先進性を維持しています。

Web 環境配慮型製品

# 環境との調和

## 地球温暖化防止

### 「地球温暖化対策の考え方」と「2012年度の総括」

地球温暖化は重大な地球環境問題であり、企業の果たすべき役割は大きいと考えています。

SIIは工場やオフィスでの省エネ活動はもとより、SIIが提供する製品・サービスなどを含め、全事業活動を通じて温室効果ガスの排出量削減に努めています。

2012年度の国内拠点におけるエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は、前年度より4,666トン削減し、60,063トン-CO<sub>2</sub>となり目標を達成しました。(前年度比7.2%削減)海外拠点においては、22,269トン-CO<sub>2</sub>(参考値※)と前年度比27.4%の削減となりました。主な要因は継続的な省エネ活動や、一部の事業撤退・事業譲渡の影響によるものです。

また、広州精工技術有限公司及び広州精工電子有限公司とともに工場を移転し、各インフラが整備されたことでエネルギー効率も向上しました。

### 省エネ活動の取り組み

各拠点では継続的な省エネ活動に取り組んでいます。オフィスでは、照明の間引きやLED化、空調の抑制、エレベーターの使用制限、クールビズの早期実施など、きめ細かな節電対策を実施しています。

また、製造拠点では、空調・コンプレッサー稼働の効率化、クリーンルームの効率運転、コンプレッサーエアの露点変更などの運用面から、設備面では高効率ボイラーをはじめとする熱源設備の更新を行いました。



LED照明

## 資源循環

### 「資源有効活用の考え方」と「2012年度の総括」

資源の枯渇は企業経営にも重大な影響を及ぼします。SIIは持続可能な循環型社会の形成に向けて、地球資源の責任ある利用を図ることは極めて重要な責務と考えています。

2012年度の国内拠点の再資源化率は目標90%に対して実績は94%となり目標を達成できました。廃棄物総発生量は2,391トンで前年度から444トン削減できました。海外拠点については再資源化率58%(参考値※)と、前年度より3ポイント向上しました。

### 製品の回収と再資源化

限りある資源を有効に活用するために、大判プリンターの使用済みトナーカートリッジ、廃トナーボトル等は回収を行いリサイクルしています。その他、業界団体を通じても再資源化に取り組んでいます。

#### 業界団体などを通じての回収・適正処理・再資源化

対象品目	参加団体名
データ通信カード PHS電話機	モバイル・リサイクル・ネットワーク
ボタン電池	ボタン電池回収推進センター (一般社団法人電池工業会)
小形二次電池	一般社団法人JBRC
容器包装	公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会

### 取り組み事例

#### 電力の見える化

国内拠点では、消費電力の見える化に継続的に取り組んでいます。現状を把握し、情報を共有することでさらなる省エネ活動に結びつけることが狙いです。電力の計測にはSIIの製品である無線センサネットワーク『ミスター省エネ』を利用しています。



「ミスター省エネ」のセンサ端末

#### 資源有効活用

- Seiko Instruments (Thailand) Ltd.では製造工程から発生するアルミニウム、鉄の切粉を圧縮機にかけて油を抽出しリサイクルしています。
- Instruments Technology (Johor) Sdn.Bhdではリサイクル事業者を開拓し、梱包材、用紙、金属材料など再資源化の品目を追加しました。
- 広州精工技術有限公司では工場移転を機に、食堂での割りばし使用を中止しました。



圧縮機

※タイの製造拠点での実績把握が不可能な状態のため一時的に集計対象から除外しています。

## 生物多様性保全

### 「生物多様性保全の考え方」と「2012年度の総括」

SIIの事業活動は生態系サービスに依存しています。生物多様性の保全は、社会貢献活動という面だけではなく、本業で対応を検討すべき環境経営の重要課題だと考えます。SIIでは生物多様性の保全に具体的に取り組むにあたり2011年4月に生物多様性行動指針を策定しました。

Web SIIグループ生物多様性行動指針

2012年度も生物多様性の啓発活動に努めるとともに、事業活動と生物多様性との関わりについて定性的・定量的な把握を進めました。

### 生物多様性の啓発活動

国内拠点では、生物多様性をテーマとしたニュースの発行、標語の募集、拠点内の環境委員会での講演などの啓発活動を行いました。仙台事業所では、生物多様性に関するアンケートを実施し、生物多様性についての認知度・理解度がまだ低いことがわかりました。今後も継続的な啓発を行っていきます。

### 製品のライフサイクルにおける生物多様性評価

(独)産業技術総合研究所が開発した日本版被害算定型影響評価手法第二版(LIME2)を活用して、製品のライフサイクルにおける生物多様性への影響評価を実施しました。内面研削盤で評価を試行した結果、新機種では旧機種に比べて生物多様性への影響が23%削減していることがわかりました。今後は、結果の分析と対応策の検討、新たな製品による評価を検討していきます。

### 取り組み事例

#### 生物多様性の観点からみた土地利用評価

盛岡セイコー工業(株)では、「一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)」が開発した『いきもの共生事業所®推進ガイドライン』に基づき、SIIグループでは初めての土地利用状況の評価と生物調査を実施しました。評価には社外の専門家にも参加いただき、さまざまな観点から助言をいただきました。改善点も明らかになったことで、今後の取り組みにもつなげることができました。この評価は各拠点にも展開していく予定です。

## 化学物質管理

### 「化学物質管理の考え方」と「2012年度の総括」

化学物質を正しく安全に管理していくことは、企業の責任であり、リスクマネジメントの上でも重要だと考えます。SIIの国内拠点では製造工程で使用する化学物質の中で、PRTR法対象物質に加えSIIで独自に指定した自主管理物質(22物質)とVOC(揮発性有機化合物:100物質)を排出量削減の管理対象としています。

2012年度の製造工程における管理対象物質の排出量は、目標31.4トンに対して28.9トンで目標を達成できました(前年度比-4%)。また、製品含有化学物質については非含有管理物質5物質の非含有を95%以上に維持でき、目標を達成しました。

### 製品含有化学物質の管理

SIIでは人や環境に有害性があり、法律によって禁止されている物質はもちろん、有害性が懸念されている物質についても管理対象物質と定めて、製品への含有禁止や削減に取り組んでいます。

これらの管理対象物質のうち、RoHS指令※1対象物質である鉛、カドミウム、水銀、六価クロムと、廃棄時の不適切な処理により有害性が懸念されるポリ塩化ビニル(PVC)の5物質を非含有管理物質として定めています。製品に携わる事業部門にて管理体制を構築し、削減活動の推進と定期的な分析などにより製品への含有の未然防止を図っています。

2012年度は2013年1月に発効した改正EU RoHS指令への適合を証明する適合宣言書や技術文書の作成、社内体制の整備、適用除外から外れる部品の把握とその代替化を進めました。

REACH規則※2では、製品に含まれる高懸念物質(SVHC: Substances of Very High Concern)の含有状況により、お客様などへの情報伝達やEU当局への届出義務が発生し、また、SVHCは毎年、数十物質が新規に公表されます。SIIでは継続的に含有状況を調査し、その結果を踏まえて、義務を果たしていくと同時に削減と代替活動を進めています。

※1 RoHS指令: EUにおける電気電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する指令。  
※2 REACH規則: EUにおける化学物質の登録・評価・認可および制限に関する規則。



生物調査

# 環境との調和

## 事業活動と環境負荷

SIIは、製品のライフサイクルを通して環境負荷を的確に把握して行くことは環境活動の基本だと考えています。2012年度の環境負荷の概要と環境パフォーマンスの実績は次の通りです。

### INPUT (内容説明)

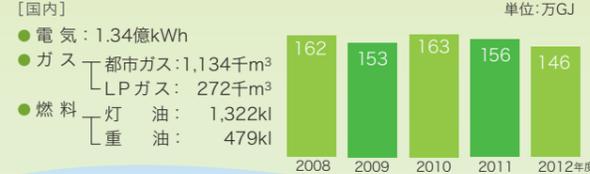
- 原材料 : 生産に使用する金属材料、プラスチック材料、ガラス材料などの一部を対象
- 包装材 : 容器包装リサイクル法の対象となる紙・プラスチック
- 紙 : 社内で使用するコピー用紙、プリンター用紙
- 化学物質 : PRTR対象物質とHFC類、PFC類、SF<sub>6</sub>、VOC
- 電気 : 電力会社からの購入電力
- 水 : 上水道、工業用水、地下水

### OUTPUT (内容説明)

- NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub> : 大気汚染防止法で規制されるばい煙発生施設を設置している事業所に限定
- 化学物質 : PRTR 対象物質とHFC類、PFC類、SF<sub>6</sub>、VOCの大気・水域への排出量
- 排水 : 河川、下水道への排水
- COD : 水質汚濁防止法の総量規制対象事業所に限定
- BOD : 水質汚濁防止法の特定施設設置事業所に限定

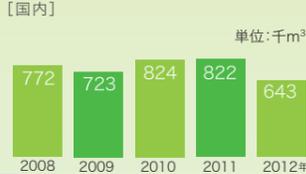
### INPUT

エネルギー 1,456,395GJ (国内)



[海外] ● 電気: 0.57億kWh  
● ガス: 63千m<sup>3</sup>  
● 重油: 142kl

水 643千m<sup>3</sup> (国内)



[海外] 357千m<sup>3</sup>

資源

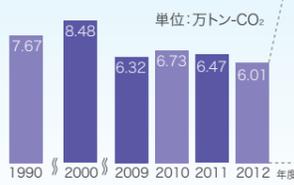
- 原材料: 1,218トン
- 包装材: 434トン
- 紙: 44トン

化学物質 233トン

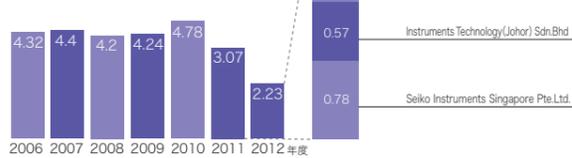
### OUTPUT

大気への排出 (国内)

- CO<sub>2</sub>排出量: 60,063トン-CO<sub>2</sub>
- NO<sub>x</sub>排出量: 4.5トン
- SO<sub>x</sub>排出量: 1.8トン
- 化学物質: 29トン



[海外] ※1 ● CO<sub>2</sub>排出量: 22,269トン-CO<sub>2</sub>



水域への排出 (国内)

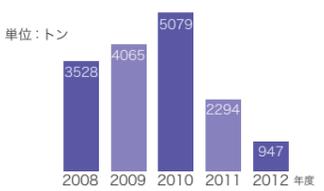
- 排水量: 424千m<sup>3</sup>
- 化学物質: 0.3トン
- COD: 1.2トン
- BOD: 2.1トン

廃棄物 (国内)

- 一般廃棄物: 総発生量: 387トン, 再資源化率: 83%, 再資源化量: 321トン
- 産業廃棄物: 総発生量: 2,004トン, 再資源化率: 96%, 再資源化量: 1,916トン
- 最終埋立率: 0.3% 8トン



[海外] ※1 ● 総発生量: 947トン (有価物: 352トン含む)



※1: タイの製造拠点は正しい実績データの把握が困難な状態のため一時的に集計対象から除外しています。  
※2: 国内のSIIグループ間の輸送のみを対象  
※3: 2012年度までのSIIグリーン商品認定品を対象に1年間の使用で推計

### INPUT

輸送用エネルギー※2 ● ガソリン: 38kl ● 軽油: 60kl

製品使用のエネルギー※3 ● 電気: 199,813千kWh



### OUTPUT

輸送による大気への排出※2 ● CO<sub>2</sub>排出量: 249トン-CO<sub>2</sub>

製品使用による大気への排出※3 ● CO<sub>2</sub>排出量: 75,529トン-CO<sub>2</sub>

## 拠点概要と環境負荷

国内拠点	本社・幕張事業所	大野事業所	秋田事業所	盛岡セイコー工業株式会社	海外拠点	大連精工電子有限公司	広州精工技術有限公司	Seiko Instruments Singapore Pte.Ltd.	Seiko Instruments (Thailand) Ltd.
ISO14001 認証取得: 2001年10月	● 電力: 7,547千kWh ● 都市ガス: 26千m <sup>3</sup> ● 地域冷暖房: 9,380GJ	ISO14001 認証取得: 1999年3月 ● 電力: 2,767千kWh ● 都市ガス: 61千m <sup>3</sup>	ISO14001 認証取得: 1997年4月 ● 電力: 15,565千kWh ● 灯油: 350kl ● LPガス: 1千m <sup>3</sup>	ISO14001 認証取得: 1997年4月 ● 電力: 20,338千kWh ● 重油: 38kl ● 灯油: 874kl ● LPガス: 20千m <sup>3</sup>	ISO14001 認証取得: 2001年6月 ● 電力: 12,587千kWh ● ガス: 63千m <sup>3</sup> ● 蒸気: 2千t	ISO14001 認証取得: 2005年3月 ● 電力: 1,815千kWh	ISO14001 認証取得: 1997年5月 ● 電力: 20,464千kWh	ISO14001 認証取得: 2002年3月 ● 電力: 一 千kWh	
高塚事業所	ISO14001 認証取得: 1996年11月 ● 電力: 63,705千kWh ● 都市ガス: 1,047千m <sup>3</sup>	仙台事業所	ISO14001 認証取得: 1998年2月 ● 電力: 9,100千kWh ● 重油: 441kl	エスアイ・クリスタルテクノロジー株式会社 (栃木)	広州精工電子有限公司	Seiko Instruments (H.K.) Ltd.	Instruments Technology (Johor) Sdn.Bhd.	Seiko Instruments (Thailand) Ltd.	
ISO14001 認証取得: 1999年2月 ● 電力: 12,613千kWh ● LPガス: 249千m <sup>3</sup>	ISO14001 認証取得: 2002年10月 ● 電力: 14,877千kWh	ISO14001 認証取得: 2002年10月 ● 電力: 14,877千kWh	ISO14001 認証取得: 2002年3月 ● 電力: 594千kWh	ISO14001 認証取得: 2002年10月 ● 電力: 14,877千kWh	ISO14001 認証取得: 2003年7月 ● 電力: 6,661千kWh ● 重油: 142kl	ISO14001 認証取得: 2005年3月 ● 電力: 594千kWh	ISO14001 認証取得: 2002年10月 ● 電力: 14,877千kWh	ISO14001 認証取得: 2002年3月 ● 電力: 一 千kWh	
● CO <sub>2</sub> 排出量: 3,230トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 214トン (再資源量: 192トン)	● CO <sub>2</sub> 排出量: 1,196トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 33トン (再資源量: 26トン)	● CO <sub>2</sub> 排出量: 6,828トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 310トン (再資源量: 290トン)	● CO <sub>2</sub> 排出量: 10,186トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 557トン (再資源量: 533トン)	● CO <sub>2</sub> 排出量: 4,949トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 308トン (有価物量: 176トン)	● CO <sub>2</sub> 排出量: 692トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 48トン	● CO <sub>2</sub> 排出量: 7,804トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 303トン (有価物量: 102トン)	● CO <sub>2</sub> 排出量: 一 トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 一 トン (有価物量: 一 トン)		
● CO <sub>2</sub> 排出量: 26,703トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 966トン (再資源量: 913トン)	● CO <sub>2</sub> 排出量: 6,282トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 98トン (再資源量: 86トン)	● CO <sub>2</sub> 排出量: 4,661トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 158トン (再資源量: 144トン)	● CO <sub>2</sub> 排出量: 2,924トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 163トン	● CO <sub>2</sub> 排出量: 227トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 4トン	● CO <sub>2</sub> 排出量: 227トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 4トン	● CO <sub>2</sub> 排出量: 5,673トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 123トン (有価物量: 73トン)	● CO <sub>2</sub> 排出量: 一 トン-CO <sub>2</sub> ● 廃棄物総発生量: 一 トン (有価物量: 一 トン)		

● 国内拠点の再資源量には有価物を含んでいます。

※正しい実績データの把握が困難な状態のため、一時的に集計を中止しています。

Web サイトレポート



セイコーインスツル株式会社  
環境経営推進部

千葉県千葉市美浜区中瀬1-8 〒261-8507  
電話番号：043-211-1111（代表）  
043-211-1149（直通）  
ファクシミリ：043-211-8019  
<http://www.sii.co.jp/eco/>



この印刷物に使用している用紙は、  
森を元気にするための間伐と  
間伐材の有効活用に役立ちます。



植物油インキを使用しています。



印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

発行日2013年7月 次回発行2014年7月  
1-1307/6000/CO/KP